

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1. めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という『建学の精神』をもとに、学校教育を通じて地域社会からの信頼や期待に応えられる学園、生徒が何歳になっても誇りを持って語れる学園、教職員が生徒の満足を自らの喜びにできる学園づくりをめざす。

【生徒像】

- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけ、責任ある行動がとれる生徒
- 国際社会において活躍するために、たくましく生きる力を身につけた生徒

2. 中期的目標

「国公立大学進学実績の向上」という重点目標の達成をめざし、各部署・各学年で4月に活動方針を策定する。できる限り目標を数値化し、その目標を達成するための具体的な方策を立案する。11月に進捗状況、3月に目標達成状況を校務会議・職員会議で報告し、次年度への課題を明確にする。

1. 生徒指導を基盤とした学習指導と進路指導を確立する。

(1) 学力向上と進路実現

生徒が6年間の中で自らの進路目標を持ち、自己実現できる進路を獲得できるよう、教員間の相互授業参観や教科会を充実させ、授業内容の点検や指導法の研究を行い、授業力向上に取り組む。

- ア. 進路指導に即した学習指導を展開し、学力を向上させて希望進路を実現させる。
- イ. 前期課程の段階から学問探究団「RYS」（論より証拠）や総合的な学習の時間「学芸ESD」を通して、自分の進路に対する意識を向上させる。前期課程の3年生からどの進路を選ぶことがふさわしいかを考えさせ、後期課程の4年生から文理選択を行う。
- ウ. 後期課程での放課後講習、合宿講習、6年生での入試対策講座やセンター試験後の個別指導で、自学自習の習慣を身につけさせ、自己の進路を自らの力で切り開く姿勢を育成する。

(2) 基本的な生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的な生活習慣」の確立と大きな関係がある。すべての教育活動を通じ「人の話を聞ける生徒」「挨拶のできる生徒」「ルールを守る生徒」の育成に努める。

- ア. コミュニケーション能力を育成し、正しい人間関係を構築することで、学校生活への満足度を高める。
- イ. いじめを許さず、生徒全員が安心して登校できる学校づくりをめざす。教員に対する信頼度を高める。
- ウ. 校内および通学途中における服装の乱れをなくし、マナーを守ることのできる社会性を育成する。

(3) 社会性・協調性の育成

少子化・核家族化の影響で親の過保護・過期待の中で育ってきた生徒たちは、自己中心的な性格になりがちであり、協調性や寛性に欠ける面がみられる。建学の精神にある社会に貢献できる人間を育成するための取り組みを教育活動全体を通して実施し、自尊感情を高めていく。

- ア. セレッソのボランティア活動やエコ活動を通して、社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成する。
- イ. 限られた時間や施設での部活動だが、その中で持続力や寛性を養い、協調性を育成する。
- ウ. 体育祭や文化祭等の行事や人権映画鑑賞などを通して他者への思いやりや協調性、自分の意見を相手に伝える力（コミュニケーション能力）を育成する。

2. 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

公立中学校と違い「校区という地域」を持たない6年完全一貫の本校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえる。

- ア. 三者面談や保護者会・進路説明会を通して学校生活の様子や卒業後の進路を保護者とともに考える中で、信頼関係を築いていく。
- イ. 進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路希望を担任が十分把握し、保護者と生徒の願いを調整する機能を学校が持つことにより、信頼関係を築いていく。
- ウ. 学校生活の様子をホームページ等で情報発信し、開かれた学校づくりを通して保護者との信頼関係を深める。

(2) 危機管理体制の確立

地球温暖化の影響から豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ発生するかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められる。

- ア. 避難訓練を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備える。
- イ. 学校として帰宅困難となる生徒が出た場合を想定し、保護者との連絡体制を整えていく。

【自己評価の結果と分析・学校協議会の意見】

□学力向上と進路実現	学校協議会の意見
本校は完全6年一貫教育で国公立大学や有名私立大学の合格をめざす進学校で、学力向上が生徒・保護者の一番の願いである。学校評価保護者アンケートの「全科目にわたり	・進路実現に向けて6年間を見据えたより系統立てた取組みの充実が望まれる。

学習指導は充実しており、学習指導は充実している」という問いに対し、肯定回答は前期課程50%、後期課程52%であり、留保回答がそれぞれ約13%を占める。目に見える成果を重視して判断する保護者が多いように思われる。

生徒アンケートの「授業における理解度」「学習効果」で昨年より若干ではあるが増加していることから、その効果が実感できている生徒が増えていると考えられる。教員との信頼関係が学習面で成果をあげていると考えられる。6年一貫のカリキュラムを進めているが、途中でつまづいてしまうとそれが最後まで影響してしまうということが6年一貫校の弱点の一つでもあります。生徒のモチベーションを6年間維持することは非常に難しいですが、やはり授業力を高め、生徒の理解度を高めていくことが重要な課題である。教員の授業力向上に向け、次年度は、年2回の授業評価アンケートの結果を、教員がより自己分析しやすいものに改める予定である。

「進路指導は充実しているか」についての保護者アンケートの肯定回答は、前期課程39%（留保回答42%）、後期課程66%（留保回答28%）である。前期課程では、留保回答が減少しない結果であるが、2年、3年と学年が上がるにつれて減じている。6年間系統的に取り組む「国公立大学合格支援プログラム」に基づく指導を充実させていく必要がある。また、生徒アンケートの「将来どのような職業に就きたいか」という問いに対し、決まっている生徒は前期課程32%、後期課程47%という結果である。学年が進むにつれて、将来の夢や進路について考えるようになってきている結果である。6年をかけて大学進学を目指していく中で、将来を見据えることは重要なポイントである。進路に対する意識を低学年のころから持てるよう指導していくことが大切である。

□基本的な生活習慣の確立

保護者アンケートの「子どもに獲得させたい資質」という問いの回答として、「学力・知力」に次いで「将来を切り開いていく力」「協調性・社会性」「自主自律の姿勢」が上位を占めている。これらの基盤となるのは、普段の生活の中で、時間を守る、服装や髪型などルールを守る、大きな声であいさつをする等、基本的な生活習慣の確立が大切である。その根幹にあるのが、人の話を素直に聞く、自分の気持ちを自制するという心の育成である。遅刻指導や生活点検などの取り組みを継続して行い、定期的な二者面談で生徒理解に努めているが、まだまだ不十分である。保護者アンケートの「生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果を挙げている」という問いの肯定回答は、前期課程59%、後期課程65%と昨年度とほぼ同様である。特に、前期課程の生徒は、同性間・異性間を問わずトラブルが多く発生している。この結果を真摯に受け止め、生徒の心に寄り添う生活指導の充実が大きな課題である。

「自分の学校生活は充実していると思いますか」の肯定回答は、前期課程74%、後期課程66%という結果で、満足度は後期課程で低くなっている。また、「学校に行きたくない、授業に出たくないと思うことのある」生徒が前期課程11%、後期課程17%でいる。後期課程は増加傾向にあり、進路に向けての勉強が負担と思う生徒が多いと思われるが、「人間関係で悩んでいる」生徒も後期課程で約10%存在しており、友達関係も課題の一つである。「人間関係で悩んでいる」トラブルを未然に防ぎ、生徒が安心して登校できる環境を整えることが重要である。

□社会性・協調性の育成

あらゆる教育活動を通して社会性や協調性を育む取り組みを進める必要がある。

セレッソ大阪のボランティア活動は、計17回、のべ326名が参加。年々登録を希望する生徒が増え、取り組みが定着している。また、サポーターマッチでは「ユニクロ服のチカラプロジェクト」を実施した。

学問探究団「RYS」の取り組みは、生徒が社会に触れることで、将来のイメージが膨らみ、学習意欲も向上するという大きな成果を上げている。様々な教育活動をキャリア教育の視点から見直す必要がある。現在行われている様々な教育活動がそれぞれの学年のキャリア発達の段階に応じた取り組みとなるように、あるいは、様々な教育活動が単発ではなく有機的な繋がりをもつように、その内容を検討する必要がある。

行事は、文化祭・マラソン大会とともに縦割りで行う体育祭を通して学年を超えた一体感を生み出し、成果を上げた。また、本校唯一のクラス対抗の行事、コーラス大会も大いに盛り上がったが、生徒数減少に伴う行事の見直し・精選が必要である。

□保護者への情報提供

中学・高校という思春期真っ只中の生徒が6年間本校で過ごす中で、いかに学校生活における満足度を高めていくか、保護者や生徒の期待に応えられるかが学校としての大きな課題である。

保護者アンケートの「この学校に入れてよかった」という問いに対し、昨年より改善

- ・「国公立大学合格支援プログラム」を作成し、それぞれの学年でのポイントを明確にしているのは大いに評価できる。
- ・6年間は長い。高校入試を経験しないデメリットも考えられるが、3年生での先取り学習などメリットを保護者にもっと周知する必要がある。
- ・前期課程では進路はまだまだ先だと思っている生徒が多いと思うが、意識を向上させる取組みを進めているのは良いことだと思う。
- ・50分の授業をいかに展開していくか。生徒の興味や関心を引き、やる気を喚起する授業づくりをさらに進めて欲しい。そのために、授業アンケートの結果を教員がしっかり自己分析することが大切である。

- ・基本的な生活習慣の確立が、学力向上を含めすべて教育活動の基盤になるという学校の方針は賛成である。
- ・普段の生活の中で、時間を守る、あいさつをする等は家庭教育が占める割合も非常に高いと思う。家庭としっかり連携し取り組んで欲しい。
- ・前期課程でトラブルが多いと聞くが、やはり生徒の発達段階に応じた指導が必要である。中学生と高校生を何でも一律にとらえるのではなく、特に前期課程の生徒は粘り強く心に寄り添う指導を行って欲しい。
- ・校内では、ルールを守るという規範意識の醸成が不可欠である。また、自主自律の育成には、生徒会活動や集会指導の充実が望まれる。
- ・豊かな人間性を育てるために、道徳教育にもっと取り組んで欲しい。

- ・学問探究団「RYS」や「学芸ESD」の取り組みは、自分が将来進む道を考えるというキャリア教育の視点からも大いに評価できる。中等教育学校が積み上げてきた誇れる実践である。
- ・数年先の大学入試改革でも、単に知識だけでなく、思考力や判断力などが問われ、入試形態も大きく変わると言われている。プレゼンテーションやディベートなどの取組は、そのような力をつけてくれると期待している。
- ・ボランティア活動は、社会性や協調性の育成に大変有効である。自ら手を挙げ参加する生徒を多く育てて欲しい。

- ・保護者アンケート「この学校に入れてよかった」という問いの否定回答が減ったのは一定評価できるが、さらに努力が必要ではないか。
- ・保護者連絡を密にするとともに、学校の取組みなどをどんどん

<p>され、否定回答は約15%である。6年一貫の本校への期待をしっかりと受け止め、教育活動に従事しなければならない。そのためにも否定回答を0に近づける努力が必要である。そんな中、保護者アンケートの「担任との信頼関係」では90%近い肯定回答があり、生徒アンケートの「教員の公平な姿勢」に90%近くの生徒が肯定回答を出しており、昨年を上回っている。まだまだ十分ではないが、規模の小さな学校で、教員と生徒の関係は非常に重要である。本校は創立当初より教員と生徒の間が近いことが特色の一つである。そうした良い特色を生かし、生徒の満足度が高まるよう努力していく必要がある。</p> <p>また、私立学校は、公立中学校のように校区を持たないため、保護者への情報発信が信頼関係を築いていくうえで大切な要素となってくる。保護者アンケートの「ホームページの充実」についての問いに対し約75%の肯定回答がある。一方、留保回答が約15%あり、ホームページを一層充実させ、学校の様子・生徒の活躍している姿等をわかりやすく伝える工夫をする必要がある。</p> <p>□危機管理体制</p> <p>避難訓練を通して集団で避難するときの心構えを伝えた。また、本校は大和川の南からの通学者が約30%在籍し、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想される。今年度より各自が防災セットを購入し教室に保管している。</p>	<p>情報発信することが大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページがリニューアルされ大変見やすくなった。学校の様子がよくわかる。一層の充実を望む。 ・危機管理体制は常に万全を期すことが求められる。防災セットの配備は良いことだと思う。
--	--

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力向上と進路実現	1. 学力向上と進路実現に向けた取り組みの強化 (1) 生徒による授業満足度の増大 (2) 自学自習の態度を育成し、意欲的に学習する姿勢を身につける。 (3) 希望進路の実現に寄与する。	本校は創立当初より6カ年で学力を身につけ、国公立大学・難関私立大学をめざしてきた。 自らの進路を見つけ、実現していくことが、生徒・保護者はもちろんのこと、我々教員の願いでもある。多感な中高時代を本校で過ごす中で、着実に学力をつけていくことが目標である。そのためにも我々教員には「きめ細かな学習指導」が求められる。 (1) 進路実現のために「わかる授業」を生徒たちに保障する。 (2) 多様な進路希望に対応した学習指導を充実する。 (3) 生徒の夢の実現とともに喜ぶ教師集団をめざす。	(1) 生活環境アンケート「満足度」の肯定回答を80%以上にする。 (2) 授業アンケート「理解把握」の肯定回答を80%以上にする。 (3) 授業アンケート「学習効果」の肯定回答を80%以上とする。 (4) 生活環境アンケート「将来の夢」の肯定回答を80%以上とする。	私立の中高一貫校にとって、6年間で学力を身につけ、自らの進路を見つけ、実現していくことが、保護者の願いであり、我々教員の願いでもある。そのためにも、しっかりと学習形態を整えることが必要です。 ○アンケート1 「自分の学校生活は充実していると思いますか。」肯定回答した生徒 前期課程：全体74% 1年79% 2年75% 3年69% 後期課程：全体66% 4年57% 5年65% 3年72% 前・後期とも評価指数を達成しなかったが、前期課程では1年のみならず2・3年生も昨年より数値が上がっている。後期課程も含め、充実していない要因としては友人関係であったり、学習効果であったり様々である。より学習効果を高め、学年を追って満足度が上がっていくよう努める。 ○アンケート2 「問い掛けやテスト、宿題点検などで理解が確かめられながら授業が進められている。」肯定回答した生徒 前期課程：全体平均 73.5% 後期課程：全体平均 76% 授業の中でどれだけ理解を深められるか。評価指標には届いていないが、昨年より数字が上がっている。日々の授業の積み重ねが最終的な進路実現に大きく影響する。授業の組み立てや進め方など、生徒の理解を深めていく努力が必要である。 ○アンケート3 「この授業を受けて、学力や技術の向上を実感できた。」肯定回答した生徒 前期課程：全体平均 72% 後期課程：全体平均 73% 全体として数字はわずかながら上がっている。授業第一主義でさらに学習効果を上げるよう、指導法の工夫改善に努める。 ○アンケート4 「将来どのような職業に就きたいか、考えていますか。」肯定回答した生徒 前期課程：全体68% 1年68% 2年60% 3年77% 後期課程：全体85% 4年77% 2年90% 3年92%

			<p>(5)学校経営評価アンケートの「進路指導」の肯定回答を80%以上とする。</p>	<p>後期課程全体で昨年より大きく数字を伸ばした。後期課程に入り自覚が高まったものと考えられる。特に後期課程での進路指導がこの数字に結びついたと考えられる。前期課程の段階から、職業感を意識できるよう、進路指導の取り組みやRYSなどを進めていく。</p> <p>○アンケート5 「先生の話や配られる資料は、進路を考えたり決めたりするのに役立つ」肯定回答した生徒</p> <table border="1" data-bbox="981 383 1465 450"> <tr> <td>前期課程:</td> <td>全体 79%</td> <td>1年 83%</td> <td>2年 70%</td> <td>3年 82%</td> </tr> <tr> <td>後期課程:</td> <td>全体 86%</td> <td>4年 76%</td> <td>5年 83%</td> <td>6年 97%</td> </tr> </table> <p>やはり後期課程で進路指導が実を結んだと考えられる。大学受験が近づき当然と言えばそうあるが、この数字をさらに高める努力は必要である。また前期課程でも大学受験を意識づけると共に、有効な情報を提供していく。</p>	前期課程:	全体 79%	1年 83%	2年 70%	3年 82%	後期課程:	全体 86%	4年 76%	5年 83%	6年 97%																														
前期課程:	全体 79%	1年 83%	2年 70%	3年 82%																																								
後期課程:	全体 86%	4年 76%	5年 83%	6年 97%																																								
<p>基本的 生活 習慣の 確立</p>	<p>2. 規律ある学校生活の確立</p> <p>(1)規範意識と自律性の育成</p> <p>(2)人間関係の構築</p> <p>(3)清掃活動の徹底</p>	<p>中高6年間を本校で過ごす中で、子どもから大人への成長過程が見られる。その中で、規範意識を高め、人間関係を構築する態度を身に付けさせたいと考える。</p> <p>常に教員は生徒目線に立ち、公平な目で生徒を指導できるようにする。相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力を育成し、言葉の行き違いから「いじめ事象」に発展しないよう、考えて行動する習慣の確立をめざす。また、「いじめ事象」が発生した場合は、厳格に対応していく。</p> <p>また、一日の大半を過ごす教室の管理は学級経営に欠かせないもので、美化・清掃心がける。</p> <p>(1)ガイダンスに決められたことをきっちり守れるよう、常に意識をさせる。ルールに沿って学校生活が円滑に進むよう指導する。</p> <p>(2)「いじめ事象」に関しては、いじめ防止対策委員会を組織し、いじめアンケートを実施することで、「いじめ」を抑止するとともに、「いじめ事象」には担任だけでなく、教職員全体の問題として取り組む体制をつくる。</p> <p>(3)教室の学習環境を整備するため、担任主導のもと清掃活動を徹底する。</p>	<p>(1)学級経営評価アンケート「学級の規律と協力」の肯定回答を80%以上にする。</p> <p>(2)1日の生活の大半を過ごす学校に対し、愛着をもち、学校生活の満足度を高めたい。</p> <p>生活環境アンケートの「学校に行きたくない」と思う生徒を15%以下に抑える。</p> <p>(3)学級経営評価アンケート「公平な対応」の肯定回答を85%以上にする。</p> <p>(4)学級経営評価アンケート「整理整頓」の肯定回答を80%以上にする。</p>	<p>生徒にとって学級こそ学校生活の居場所であり、その居場所が落ち着いた規律性を保っていないと、目標の達成はならない。</p> <p>○アンケート1 「私のクラスは規律ある雰囲気の中で生徒が互いに協力し、良い刺激を与え合っている。」肯定回答をした生徒</p> <table border="1" data-bbox="981 801 1465 869"> <tr> <td>前期課程:</td> <td>全体 72%</td> <td>1年 74%</td> <td>2年 74%</td> <td>3年 69%</td> </tr> <tr> <td>後期課程:</td> <td>全体 82%</td> <td>4年 77%</td> <td>2年 81%</td> <td>3年 87%</td> </tr> </table> <p>昨年度より、前期課程・後期課程とも3ポイント上がっている。後期課程では評価指標を上回った。前期課程では、集団育成の視点で、生徒のコミュニケーション力、問題解決力を高めていく必要がある。</p> <p>○アンケート2 「学校に行きたくない、授業に出たくないと思うことはありますか。」よくあると回答した生徒</p> <table border="1" data-bbox="981 1081 1465 1149"> <tr> <td>前期課程:</td> <td>全体 11%</td> <td>1年 10%</td> <td>2年 13%</td> <td>3年 11%</td> </tr> <tr> <td>後期課程:</td> <td>全体 17%</td> <td>4年 21%</td> <td>5年 19%</td> <td>6年 10%</td> </tr> </table> <p>特に後期課程4年生5年生の数字が高くなっている。前期課程の時にトラブルが多かったことに加え、勉強のプレッシャー、あるいは人間関係が影響していると考えられる。学年を中心に改善をしていく努力が必要である。こうした中には、いじめやいじめにつながる事象も現れている。いじめ防止対策委員会にてアンケートを実施し、いじめを防止するとともに、人間関係で不安を持っている生徒に対しては、学校カウンセラーとも相談し、対処するように努める。</p> <p>○アンケート3 「担任の先生は、学級の生徒を分け隔てなく、公平に接してくれる」肯定回答した生徒</p> <table border="1" data-bbox="981 1361 1465 1429"> <tr> <td>前期課程:</td> <td>全体 90%</td> <td>1年 91%</td> <td>2年 87%</td> <td>3年 92%</td> </tr> <tr> <td>後期課程:</td> <td>全体 92%</td> <td>4年 92%</td> <td>5年 85%</td> <td>6年 96%</td> </tr> </table> <p>学校生活において、生徒にとって教員との関係は非常に大きい。どの学年も、評価指標を上回った。1年生も、教員との関係は良好のようである。今後も教員が分け隔てなく生徒に接し、生徒の人間関係が構築されるよう研鑽を積んでいく。</p> <p>○アンケート4 「自分の教室は、いつも清潔で整理整頓が行き届いている。」肯定回答した生徒</p> <table border="1" data-bbox="981 1641 1465 1709"> <tr> <td>前期課程:</td> <td>全体 80%</td> <td>1年 80%</td> <td>2年 69%</td> <td>3年 89%</td> </tr> <tr> <td>後期課程:</td> <td>全体 77%</td> <td>4年 72%</td> <td>5年 70%</td> <td>6年 89%</td> </tr> </table> <p>規律ある学校生活、学習環境の確保には教室の美化は欠かせない。3つの学年が評価指標を下回る結果となった。担任・学年を中心に教室の美化を強化し、学習環境を整えていく努力が必要である。</p>	前期課程:	全体 72%	1年 74%	2年 74%	3年 69%	後期課程:	全体 82%	4年 77%	2年 81%	3年 87%	前期課程:	全体 11%	1年 10%	2年 13%	3年 11%	後期課程:	全体 17%	4年 21%	5年 19%	6年 10%	前期課程:	全体 90%	1年 91%	2年 87%	3年 92%	後期課程:	全体 92%	4年 92%	5年 85%	6年 96%	前期課程:	全体 80%	1年 80%	2年 69%	3年 89%	後期課程:	全体 77%	4年 72%	5年 70%	6年 89%
前期課程:	全体 72%	1年 74%	2年 74%	3年 69%																																								
後期課程:	全体 82%	4年 77%	2年 81%	3年 87%																																								
前期課程:	全体 11%	1年 10%	2年 13%	3年 11%																																								
後期課程:	全体 17%	4年 21%	5年 19%	6年 10%																																								
前期課程:	全体 90%	1年 91%	2年 87%	3年 92%																																								
後期課程:	全体 92%	4年 92%	5年 85%	6年 96%																																								
前期課程:	全体 80%	1年 80%	2年 69%	3年 89%																																								
後期課程:	全体 77%	4年 72%	5年 70%	6年 89%																																								

<p>社会性・協調性の育成</p>	<p>3. 社会性・協調性の育成</p> <p>(1)ボランティア活動の充実 (2)クラブ活動の充実 (2)行事の精選</p>	<p>本学園は、セレッソ大阪とパートナーシップを結び、地域貢献活動やボランティア活動に取り組み、豊かな社会性の育成を図っている。クラブ活動や学校行事に関しても、様々な活動を通して生徒の協調性を高める。</p>	<p>ボランティア活動にも参加を促す。クラブ活動に関してはまずは勉強を中心に、週3日間という限られた時間の中で工夫して活動する。学校行事を通して生徒の協調性を高めていく。</p>	<p>セレッソ大阪とのボランティア活動では登録する生徒が昨年度より増え、計17回、のべ326名が参加した。また、サポーターマッチでは「ユニクロ服のチカラプロジェクト」を実施し、取り組みの拡充を図った。クラブ活動も、限られた施設・時間の中での活動ながら、それぞれのクラブで優秀な成果をあげた。体育祭や文化祭は6年一貫の伝統行事として続いてきている。来年度からは、中等祭として6月上旬に2日連続で開催する。他の行事も、生徒の協調性を育むべく、事前・事後指導を丁寧に行った。次年度からの学級減に伴う更なる見直しが必要である</p>
<p>保護者に信頼される学校づくり</p>	<p>4. 積極的な情報発信と保護者との連携</p> <p>(1)保護者との信頼関係の構築 (2)進路情報の提供 (3)防災への取り組み</p>	<p>私立学校は校区を持たないため、保護者への情報発信が信頼関係を築いていくうえで大切な要素となっている。また防災訓練等の安全生活に対する取り組みも緊急の課題であるという認識が必要である。</p> <p>(1)保護者への誠実な対応 (2)ホームページの充実によるきめ細かな情報発信 (3)防災意識の向上</p>	<p>(1)保護者アンケートの「この学校に入学させてよかった」という満足度を80%以上とする。 (2)保護者アンケート「担任との信頼関係」を80%以上とする。 (3)学校からの情報発信に対する信頼度をあげていくことが地域を持たない私立学校にとっては大切であり、この点にかかわるホームページの満足度80%以上とする</p>	<p>私立中学校・高等学校にとって、在校生の保護者が本校の良さをアピールしてくれることが最大の募集活動と言える。そのためにも保護者の信頼に応えた学力保障とともに情報発信をしていくことが大切である。</p> <p>○アンケート1「入学させてよかった（知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい）と思う」肯定回答した保護者</p> <p>前期課程：全体60% 1年70% 2年48% 3年74% 後期課程：全体67% 4年50% 5年69% 6年83%</p> <p>2年生と5年生で数字が大きく下回っている。明確な否定の理由を持っておられる保護者が多い。生活指導の事案に対する取り組みの甘さや説明不足は大いに反省すべき点である。</p> <p>他の学年は、数値が伸びており取組の成果と考えられる。例年在校生や卒業生の弟妹が数多く入学されていることから、着実に信頼を得ていると考えられる。全体として評価指数を達成していくためにも、さらに丁寧な対応が必要である。教育課程や学習指導・進路指導生活指導等すべての教育活動においてその要因を分析し、さらに信頼度を高めていく必要がある。</p> <p>○アンケート2「担任は相談しやすく、誠実に対応してくれる」肯定回答した保護者</p> <p>前期課程：全体81% 1年84% 2年83% 3年77% 後期課程：全体83% 4年78% 5年82% 6年87%</p> <p>前・後期課程とも昨年とほぼ同様の結果である。3年・4年以外の学年は評価指数を達成した。担任との信頼関係が築かれているという点で、概ね評価できる。慢心することなく、できる限り100%に近づけていけるよう、教師としての研鑽を積んでいく必要がある。</p> <p>○アンケート3「学校のホームページは充実しており、必要な情報を得ることができる」肯定回答した保護者</p> <p>前期課程：全体69% 1年66% 2年65% 3年75% 後期課程：全体69% 4年68% 5年68% 6年80%</p> <p>年々、家庭におけるインターネットの環境も整い、学校HPの役割は大きくなっている。どの学年も留保回答が20%前後あり評価指標に届いていない。保護者に周知する仕掛けが必要である。さらに情報発信できるよう、HPを整理し、常に新しい情報を発信するよう努める。授業参観や保護者会を設定し、また個別に3者面談を学期に1回開催しているが、さらに情報を保護者に提供するように努める。</p> <p>防災への取り組みは住吉区役所など公的な機関とも連携を図る必要がある。また、今年度より各自が防災セットを購入し教室に保管している。</p>